

イノシシ対策に忍び返ししのがえの術じゆつ 「目の錯覚」さつかく利用した新型の柵さくを開発



山村では、せっかく作った農作物をイノシシに食べられてしまう被害ひがいが多くみられています。最近、この被害ひがいを防ぐために「金網忍び返し柵かなあみのがえさく」という新型が開

発されました。ところで、大人のイノシシのジャンプ力はかなりのもので、約1.2メートルもの高さを跳び越えることができます。でも、この新型柵さくは高さが1メートルしかありません。しかし、イノシシはどうしてもこの柵さくを跳び越えることができないのです。これはどうしたことでしょうか？ この柵さくにはイノシシに対して綿密めんみつに計



算されたトリックにんぼう（忍法）が隠されているからです。

そのトリックの正体は柵さくの上部にあります。そもそも「忍び返し」とは、忍者が家に入ってくるのを防ぐため、柵さくの上部をヤリのようにとがらしたものを指します。しかし、イノシシ用は、そのような暴力的なものではありません。高さ1メートルの金網かなあみの上部30センチを、イノシシのいる側に（通常は山側）に向けて20〜30度、折り曲げただけなのです。簡単なことです

が、ここにはイノシシの「目の錯覚」を利用した恐るべき忍法にんぼうが隠されています。

忍法を種明かしします。イノシシは柵さくに対して踏み切る際、イノシシの目線（低い目線）から見ると、折り曲げた柵さくの上部がおおいかぶさり、柵さくの高さを、跳び越えられない高さで錯覚してしまいます。そうしたイノシシは柵さくを跳び越えようと、こんどは後退して距離をとりますが、目の錯覚が効き、後退しすぎて

結果的に柵と遠く離れすぎてしまします。そして結局は柵を跳び越えることができなくなってしまうのです。本当は1メートルほどの柵は楽に跳び越えることができるのに、おもしろいですね。

